

研究対象者の方への説明文書

セクシュアリティを中心とした多様性寛容向上のための教育・啓発手法開発研究

はじめに

この文書は、LGBTQ（Lesbian（レズビアン＝女性同性愛者）、Gay（ゲイ＝男性同性愛者）、Bisexual（バイセクシャル＝両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー＝心と体の性が異なる人）、Queer／Questioning（クィアまたはクエスチョニング＝性的指向・性自認が定まらない人）の当事者・非当事者の方々の実態調査について、詳しい説明を示したものです。本研究への参加に同意されるかどうかは、あなたの自由意思で決定してください。たとえ研究への参加をお断りになられても、不利な扱いを受けることはありません。

本研究に参加した後、あなたが研究への参加をやめたいと思われる時は、いつでもやめることができます。後に記載します問い合わせ先に、ご遠慮なくお伝えください。途中で研究への参加をやめになった場合でも、あなたがその後に不利益を受けることは一切ございません。担当者の説明やこの説明文書の中で、わからないことやご心配なことなどがありましたら、どんなことでも遠慮なくお尋ねください。

なお本研究は、立命館大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会の承認を受け、立命館大学長の許可および滋賀医科大学倫理審査委員会の承認を受け、各共同研究機関の長の許可を得て実施します。

研究実施体制

1) 研究責任者

立命館大学スポーツ健康科学部 教授

清家 理

2) 共同研究者

国立長寿医療研究センター 理事長

荒井秀典

日本福祉大学社会福祉学部 講師

安藤佳殊子

立命館大学・スポーツ健康科学研究科 大学院生（博士後期課程 2 年）

川瀬広大

立命館大学・スポーツ健康科学部 客員研究員

田中重徳

滋賀医科大学・医学部 NCD 疫学研究センター・特任助教

北岡かおり

京都大学経営管理研究部・教育部

特定准教授

蓮行

京都大学経営管理研究部・教育部

特定助教

末長英里子

京都大学経営管理研究部

教務補佐員

大山溪花

京都大学経営管理研究部

教務補佐員

柴田惇朗

その他、立命館大学スポーツ健康科学部、国立長寿医療研究センターに所属する研究補助者の協力を得て実施します。

研究の意義と目的について

本研究の目的は、性的指向やジェンダーアイデンティティを含むセクシュアリティの多様性に対する社会的寛容性を高めるための教育及び啓発手法を開発です。現在、LGBTQ といった性的マイノリティに対する差別や偏見の背後にある誤解や無知、無意識の偏見が存在しており、それらは、LGBTQ 当事者、非当事者の「息苦しさ」を引き起こす要因にもなっています。これらの事態を解消していくことは、異なる性的指向やジェンダーアイデンティティを持つ人々が、安心して生きられる社会を実現することにもつながります。従来より、誤解、無知、無意識の偏見を解消していく手立てとして従来、啓蒙的活動や教育が実施されてきましたが、ソーシャルネットワークサービス（X など SNS）の発展により、啓蒙的活動や教育よりも、速いスピードで、マイノリティに対する誤解や無知、無意識の偏見によるマイノリティに対するネガティブな情報が拡散されてしまいます。情報リテラシー、教育による正しい知識が無い限り、その情報の信ぴょう性を確認する等をせずに、鵜呑みにしてしまい、LGBTQ 当事者に対する根強い差別や偏見へと変貌してしまう悪循環が生じています。

そこで本研究では、まず最善な教育や啓発内容および手法の見当をつけるために、LGBTQ 当事者及び非当事者の双方の視点（LGBTQ にまつわる個人的経験、LGBTQ に関する個人の意識や行動等）から課題とニーズを明らかにする調査を実施します。過去の研究では、LGBTQ 当事者か非当事者、いずれかのニーズ探索を実施した研究がありますが、非常に古いものとなっています。また片側だけのニーズを把握すること自体が、両者の分断を招いている危険性も指摘されています。これらの課題を払拭し、LGBTQ 当事者及び非当事者の双方の視点（LGBTQ にまつわる個人的経験、LGBTQ に関する個人の意識や行動等）から課題とニーズを明らかにし、それを基にした啓発・教育プログラムの試作を実施します。そして、効果検証を経て、多様性寛容向上のための教育・啓発手法を開発します。

研究の方法について

- ・研究にご協力いただける方には、インターネットにてアンケートにご回答いただきます。
- ・アンケート調査の内容は、生活習慣などの基本情報、LGBTQ にまつわる個人的経験、LGBTQ に関する個人の意識や行動等です。

この研究の研究実施期間

2024 年 3 月 7 日 ～ 2026 年 3 月 31 日

改訂：改訂許可 2024 年 9 月 20 日

この研究に対象者として選ばれた理由

インターネット上で参加を募集いたします。

参加を希望された方のうち、下記の通り、対象の基準を設定させていただきます。

【以下に該当する方】

研究参加に同意いただける方のうち、日本在住（国籍不問）の18歳以上100歳までの方で下記のいずれかに該当する方

- ・LGBTQ 当事者の実態調査：自身がLGBTQであると自覚している方 800名
- ・LGBTQ 非当事者の実態調査：自身がLGBTQではないと自覚している方 1300名

【以下に該当する方はご参加いただけません】

- ・ご自身で日本語のアンケートに回答することが難しい方

研究に参加することで期待される利益

本研究への参加により、LGBTQ 当事者・非当事者の実態が明らかになり、自身・他者に寛容な社会の構築に貢献することができます。

研究に参加することで起こりうる危険並びに不利益

アンケートへの回答にかかる時間的・心理的負担がありますが、重篤な有害事象（健康被害）が生じる可能性は極めて低いと考えられます。

【全研究参加者】

- ・約30から40分強のアンケート調査

研究に関する情報開示について

本研究の内容をもっと詳しく知りたい場合には、他の研究対象者等の個人情報等の保護及び当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手または閲覧できます。なお、本研究により明らかになった結果に関しての問い合わせがあれば可能な限り返答を行いますが、臨床検査としての意義や精度が保障されているものではありません。開示や結果の問い合わせを希望される場合には、問い合わせ先までご連絡ください。

研究成果の公表について

ご協力により得られたデータは、個人が特定できないようにした上で分析を行い、学会発表や学術論文、研究結果の説明会（シンポジウム等）により公表することを予定しています。

個人情報等の取扱、試料・情報の保管及び破棄の方法について

・識別番号と個人情報の対応表（電子ファイルを含む）について、データ収集、統計解析委託業者内の施錠できるロッカーで保存致します。

・他機関への情報提供と記録

1：本研究で得られたデータを他の機関に提供する場合、個人情報の取り扱い、提供先機関名、提供目的の妥当性について、あらかじめ立命館大学倫理審査委員会で審査を受け、あなた（ご協力をお願いする方）の同意を得るように致します。

2：本研究の研究計画書に情報の提供元、提供先及び提供する情報を記載致しますが、この研究計画書をもって、提供記録とさせていただきます。提供記録が記載された研究計画書は、立命館大学スポーツ健康科学部インテグレーションコア 615 号室内の施錠可能なロッカーにおいて、研究期間終了後 10 年間保管した後、シュレッダーにかけて廃棄致します。

3：本研究において、データの移動が生じます。

個人情報から切り離されたデータのみ、LGBT 総合研究所（社長 森永貴彦）を経て、データベース作成担当へ提供されますが、個人が特定されることはありません。受領したデータは、アクセス制限をかけたサーバー内で適切に保存されます。

保存期間、保存期間後の対応は、立命館大学と同様の対応を講じるものとします。

②解析のためにデータをきれいに整えた（データクリーニングを終えた）データベースは、ハードディスクに入れて研究責任者 清家 理（立命館大学スポーツ健康科学部教授）、分担研究機関共同研究者 蓮行（京都大学経営管理研究部・教育部 特定准教授）に提供され、立命館大学スポーツ健康科学部インテグレーションコア 615 号室内、京都大学経営管理研究部・教育部 蓮行研究室内（アート・コミュニケーションデザインと組織経営寄附講座 研究室）の施錠可能なロッカーにて保存します。

4：調査票の原本と、同意書、ID と個人情報の対応表及び本研究で得られた全ての紙媒体資料やデータ（研究参加者連絡用の住所や電話番号を含む）は研究期間終了後 10 年間保管した後、シュレッダーなど復元できない形で破棄します。また個人情報から切り離されたデータは、専用のソフトウェアを用いて、復元できない形で破棄します。なおデータ提供先での情報の保管方法と保管期間は、前項 3 に記載した通りです。破棄方法は、立命館大学の方法と同様、専用のソフトウェアを用いて、復元できない形で破棄致します。

5：個人情報から切り離されたデータについては、将来的に公開データ（例：論文投稿時に提供を求められるような被験者属性や測定項目が入力されたデータベース）となる可能性があるため、研究期間終了後も破棄されない可能性があります。

6：本研究で得られた情報のうち、個人情報から切り離された情報について本研究目的を越え、商業目的を含む 2 次利用を行う可能性がある場合、研究代表者が指名する研究データ活用委員会を設置し、その提供の妥当性を審査します。あらかじめ、倫理・利益相反委員会の承認を得ることとしますが、その場合には、原則として、皆様に説明し、再同意を得るように致します。再同意の確認ができない場合にも、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守し、個人が特定されない

ように致します。

研究にかかる資金源

本研究は、内閣府：戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）により実施致します。また、研究対象者の方に負担いただく費用はございません。

利益相反について

本研究は、内閣府：戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）により実施致します。本研究の遂行に影響を及ぼすような利益相反（利害関係の対立）及び個人の収益は一切ございません。

知的財産権の帰属について

本研究を遂行する過程で、特許などの知的財産権が生じる可能性があります。この場合、知的財産権は大学に属し、研究対象者の皆様に帰属することはありません。

本研究で得られた情報を将来の研究に用いる可能性について

①本研究で取得したデータは他の医学研究を行う上でも重要なデータとなる可能性があります。そのため、将来この研究の当初の目的とは違う目的で解析する場合や、他の研究者と情報を共有する仕組みを作って、LGBTQを取り巻く生きづらさの研究の発展と、効果的な対策の立案に資する研究のために活用させていただくことがあります。

②研究計画書やこの説明書に変更を加える際には皆様にご説明し、改めて皆様のご協力の意思を確認させていただきます。なお確認ができない場合にも、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守し、個人が特定されない形で活用します。

研究に対する問い合わせ・苦情等の連絡先

御不明な点、ご質問、お問い合わせ等ございましたら、下記までご連絡下さい。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2024 年 11 月 25 日

研究代表者：清家 理（せいけ あや）

〒108-0023 東京都港区芝浦 4-20-2-1117

CTS 株式会社 サポートチーム

*研究者の研究倫理に関する問題が発生した場合の連絡先：

立命館大学 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会事務局

研究環境管理課（イーストウイング 1 階）